

～管内の状態を確認するため～

通水管を空水にしての管内調査を予定

令和元年 11 月中旬頃から、霞ヶ浦用水の通水管から水を抜いて、管内部状況の調査を予定しています。

霞ヶ浦用水のパイプラインは、昭和 63 年度の暫定通水開始前に造られ、約 30 年以上用水の通水を行っています。このパイプラインは鋼管やダクタイル鋳鉄管で出来ており、長く使用していると錆が発生するなどの劣化が進み、場合によっては壊れて漏水してしまう恐れがあるため、適切な点検と補修が必要となります。

今回の点検は、管内施設の状態を目視等で確認するものです。

【実施内容】

- ・目視調査・・・内面を目視により発錆やひび割れなどの確認を行います。
- ・たわみ量調査・・・縦横の長さを計測することで、円のたわみを確認します。
- ・継ぎ目間隔測定・・・ダクタイル鋳鉄管はつなぎ合わせているため、その間隔を確認します。
- ・可とう管偏心測定・・・構造物の付近にはゴム製等の可とう管があり、その偏心を確認します。
- ・内面塗膜調査・・・鋼管の腐食防止のための塗装の厚さを確認します。
- ・板厚調査・・・鋼管の鉄板の厚さを確認します。



鋼管の内面を目視により確認を行う。



パイプの直径（縦、横）を計測し、たわみを確認。



ダクタイル鋳鉄管のつなぎ目の間隔を確認。



パイプの中の堆積物の状況を確認。調査中に除去も実施。

※調査前の排水や調査中のマンホール蓋の開閉により、地上の通行に支障を来す場合がありますが、ご理解・ご協力をお願いします。